

令和7年11月27日

# 由利本荘市総合教育会議

## 議 事 録

□日時

令和7年11月27日（木） 午後3時

□場所

由利本荘市役所 4階 正庁

□出席者

|               |         |
|---------------|---------|
| 市長            | 湊 貴 信   |
| 教育委員会教育長      | 秋 山 正 毅 |
| 教育委員会教育長職務代理者 | 小 坂 綾 子 |
| 教育委員会委員       | 佐 藤 道 昭 |
| 教育委員会委員       | 佐 藤 美 帆 |
| 教育委員会委員       | 嵯 峨 泰 治 |

□案件

1. 市長あいさつ
2. 案件

「由利本荘市教育の振興に関する施策の大綱」原案について

3. 意見交換

「これからの学校とPTAや地域との関わり」について

4. その他

(事務局職員)

|                        |           |
|------------------------|-----------|
| 総務部長                   | 高 橋 重 保   |
| 教育次長                   | 熊 谷 信 幸   |
| 総務課長                   | 三 浦 啓 助   |
| 教育委員会教育総務課長            | 三 浦 雄 一 郎 |
| 教育委員会主幹兼学校教育課長         | 村 上 雅 美   |
| 教育委員会生涯学習課長            | 佐 藤 錠 司   |
| 教育委員会本荘教育学習課長          | 佐々木 錬     |
| 教育委員会中央図書館長            | 越 川 憲 光   |
| 教育委員会教育総務課参事兼課長補佐兼総務班長 | 菅 野 基     |
| 総務部総務課参事兼課長補佐          | 工 藤 将     |

(開会 午後3時)

三浦総務課長

それでは、ただ今から、  
「令和7年度 第2回 総合教育会議」を開会いたします。  
はじめに湊市長より、あいさつを申し上げます。

湊市長

開会にあたり、一言、ごあいさつ申し上げます。  
本日は大変ご多忙のところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。  
また、皆様には、日頃より市政の推進に、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
中でも、教育行政の推進につきましては、日夜ご尽力いただいているところであり、重ねて御礼申し上げます。  
今年、ブナの実等の大凶作などを背景に、全国的にクマの出没が異常なペースで増加しており、本市におきましても、目撃情報・捕獲頭数が過去最多となっていた二年前を大きく上回っているほか、本荘公園内でも目撃情報があり公園を封鎖するなど、市民の身近な生活圏にまで出没し、市民生活にも大きな影響を及ぼしております。  
各小中学校付近においてもクマの目撃情報があることから、「教育委員会ツキノワグマ出没対応マニュアル」に基づき、保護者の皆様のご協力を得ながら、児童生徒に被害が及ばないよう、各学校とともに万全の対応に努めているほか、学校付近に出没した際には、敷地内へのクマの侵入を防止するため、爆竹を使用する措置を取っているところでもあります。  
この状況は、もはや災害級と言っても過言ではなく、市民生活の安全と安心を守るため、市では、庁内に獣害対策本部を設置し、自衛隊の皆様のを借りながら、全庁を挙げてクマ対策に取り組んでいるところでもあります。  
市といたしましては、今後とも関係機関と連携しながら様々な方策によりクマ被害防止対策に努めてまいります。  
さて、本日の総合教育会議は、今年度2回目となり、「由利本荘市 教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」の原案が議題となります。  
前回9月に開催した際に、皆様からいただいた意見などを盛り込み、原案としてお示しさせていただきますので、皆様からは、さらに忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。  
また、意見交換を行う案件として、「これからの学校と家庭や地域との関わり」について話題提供させていただきます。  
これは、予想を超えた少子高齢化や人口減少が進む中であって、学校や家庭、地域が持つ課題に対して、どう対応していくか、どう考え、進めていったらよいのか、皆様の様々なお考えを聞かせてい

ただきたいと存じますので、本日は、何卒よろしく願いいたします。

三浦総務課長

ありがとうございました。

それでは、次第にしたがいまして、はじめに、2の案件といたしまして、「由利本荘市教育の振興に関する施策の大綱」について、先日の総合教育会議での皆様の意見等を反映させた、大綱の原案を事務局にて説明した後、市長と教育委員の皆様からさらにご意見をいただきたいと存じます。

また、3の意見交換として、「これからの学校と家庭や地域との関わり」というテーマを話題提供させていただきます。

皆様におかれましては、ご自由に幅広くご意見を出していただきたく、よろしく願いいたします。

なお、議事録作成の関係で、発言する際には、マイクを使用させていただきますようお願い申し上げます。

それでは、以後の進行については、市長に行っていただきます。

市長、よろしく願いいたします。

湊市長

それでは、次第に従いまして、進行してまいります。

2の「案件」について、事務局より説明をお願いいたします。

菅野教育総務課参事

はい、事務局の菅野です。

それでは皆様のお手元の方に紙ベースで資料が渡っております。今日の総合教育会議の次第と資料1、資料2、資料3でという形でございますので、その資料をもとにして説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは早速、資料1をご覧ください。

教育政策の大綱の策定スケジュールをもう1回振り返らせていただきます。先ほど来話がありますが、No. 7番の9月25日に第1回総合教育会議がございまして、新総合計画の中間件案を提示させていただきました。これが教育大綱に基となるものでございます。その後、10月の教育委員会の協議会の中でお話し合いをさせていただき、修正点を加えさせていただきました。本日No. 12番、11月27日、第2回教育総合教育会議の中で最終原案を提示させていただきます。

その後ですが、微修正はあると思いますが、総合計画が市議会の3月定例会に提案されまして、その中の3月市議会の教育民生常任委員会の中で、総合計画の中の教育大綱の部分を説明させていただき、市のホームページ、もしくは「由利本荘市の教育」の掲載などという形で、市民の方に広報をさせていただきたいなというふうに

して考えております。

そして、資料2番と資料3番に関しては、これがワンセットになって教育大綱の形を取らせていただきたいと思います。資料2番に関しましては、教育大綱の概要版ということで、こういった体系になっているか、目指す姿でありますとか、大綱の施策の体系、総合計画の中のどの部分が教育大綱になっているのかというのを示したものが資料の2でございます。

資料3番につきましては、由利本荘市総合計画のゆりほん未来プランから、教育大綱にあたる部分を抜粋した資料として、教育大綱の代わりとなるものとして冊子を作らせていただくような形を取らせていただきます。

そして、資料3では、右肩のところに書いてあるんですけども、第1回総合教育会議の意見を反映したのになっておりまして、修正した箇所につきましては、赤字部分で変わった部分をピックアップしまして、もう一つ、右側の資料3-3と横に並んでいる部分を見ながら、どこがどう変わったのかっていうのを簡単に説明させていただきます。

表紙では左のページが修正後の原案でございまして、右の部分が修正前で、これは第1回教育総合会議に出させていただいた資料でございます。

それではページを1枚めくっていただきます。基本政策5の「教育人づくり政策」の中で修正前の部分で、92ページの上から4行目のところに「幼保こども保育園との連携等」というような文言がございましたが、この幼保こども園というのは、言葉を省略していた言葉でしたので、しっかりと「幼稚園、保育園、認定こども園」というふうな正しい表記にさせていただいたところでございます。

それでは次のページに移ります。93ページの1段目の修正のことについて、「目指す10年後のまちの姿の視線を根幹に捉えるとともに、ふるさと愛に満ち、創造性にあふれる人づくりを教育の目指す姿として」という表記なのですが、もうすでに他のページに記述されている部分で繰り返しの言葉になってしまうなところであり、また、「ふるさと愛、学びの場の創出の具現化に努めます」という部分をもう少しこうわかりやすく表現した方がいいだろうというようなことがありましたので、左の方の修正後なんですけど、「ふるさと愛、学びの場の創出をコンセプトに、体験的な学びの場を創り、ふるさと愛と創造性を育む教育を推進します」というふうな形に変えさせていただいております。

それから、右のページ93ページの3段落目のところです。「進取の気性を育む教育として、児童生徒の基礎・基本の定着を図るとともに、小学校から外国語助手の積極的な活用」というような文言がありました。そして、「児童生徒の基礎・基本の定着を図る」というところが今の時代が多様な学び方が求められていることや、「基礎・基本の定着」という言葉が昔からの表現だなというよ

うなこともございましたので、そこら辺の修正を加えながら、あともう1つ、「小学校から外国語指導助手の積極的な活用」という言葉が手段として限定的な表現になっているのではないかというような意見もいただいております、また、「ICTを活用したGIGAスクール構想などを推進します」というふうに書いてあるのですが、そもそもGIGAスクール構想とはなんぞやというところが、ICTを活用したという言葉だけしか表現できていないので、もう少し分かりやすいような話し方にすればというような意見もいただいたので、修正を加えた言葉が「進取の気性を育む教育として、主体的な学びの力を育てるとともに、個々の良さを引き出し伸ばすため、グローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成、多様な学びのニーズに対応できる学校図書の充実とタブレット端末などを使い個別最適な学習環境を目指すGIGAスクール構想などを推進します」というふうに変更をさせていただいたところでございます。

それから、93ページに戻ります。「県立大本荘キャンパスが立地する特徴を活かしたことによって、創造性あふれる人づくり、まちづくりにつなげます」というような表現がございましたが、この創造性あふれる人づくり、まちづくりというのが、大学立地や人々との交流だけではちょっと足りないのではないかというような意見がございました。その意見を生かしながら、左の102ページで、「秋田県立大学本荘キャンパスが立地する特徴を活かした、学生と児童生徒、地域住民との交流などを通し、広い視野と意識を持った社会に対する参画意識を促すとともに、身近な自然と環境に誇りを持ち、市民一人ひとりが学ぶ喜びを感じられる学びの場を提供することにより、創造性あふれるひとづくり、まちづくりにつなげます」というふうに、内容を厚くしたところでございます。

それから最後の段落のところでは、「教育環境の向上は、時代の変化に対応した新たな学びの場が求められており、小中学校のあるべき特性を共有し、今後の学校環境のあり方と学校再編の方向に定めていきます。」というところなのですが、この今後の学校環境のあり方の解決方法として、学校再編の方向性ということで、学校統合ありきにもこう聞こえてしまうのではないかなという表現がありましたので、ここの部分をもう少し広く捉えるような形で、「今後の学校環境のあり方について検討を進めていきます」というような形で、いろいろな学校の環境のあり方というのがあるんじゃないかなというようなことを考えさせるような形に修正していたところでございます。

それでは、次のページをご覧ください。左の修正後の取組2・3の赤い部分があり、取組9も含めて変えた部分でございます。

94ページの取組2ところで、「基礎・基本の定着」という表現が昔ながらの表現だなというところで、もう少し違う表現ができないのかなということで103ページです。取組2「将来に生きてつ

ながる力を育む、個に応じた教育の推進」というような言葉に修正させていただいております。

そして94ページの取組3「外国語に親しむための小学校における外国語指導助手の積極的活用」という言葉も手段が限定的かなというようにありまして、103ページ取組3「小・中学校における外国語によるコミュニケーションスキルを育む教育環境づくり」というふうな表現に変えさせていただきました。

それから94ページの取組9「ICTを活用したGIGAスクール構想の推進」というところで、これも先ほどありましたが、GIGAスクール構想のことについて、ICTだけではなくってということで表現を付け加えようということで、左103ページ、取組9「子どもたちの可能性を引き出し、質の高い学びを実現するICTを活用したGIGAスクール構想の推進」というふうに表現を変えていきます。

それから94ページ5-(1)-②「学校づくりと地域づくりを活かしたふるさと愛の醸成」という大きな目標に関しての取組1から取組4というところがあったのですが、もう少し取組5として付け加えるべきではないかっていうような意見もございまして、それを付け加えた文言が103ページに書いてあります。学校づくりと地域づくりを活かしたふるさと愛の醸成を達成するために取組5として、「ふるさとを知り、ふるさと愛を醸成する体験活動の推進」というような文言を付け加えたところでございます。

それから次のページに移ります。第1回の総合教育会議では、95ページの修正前のところの成果指標が空欄であったのですが、その部分を左104ページ、アンケート調査として全国学力・学習状況調査の結果を生かした成果指標を付け加え設定させていただいております。

それから次のページに移ります。修正前の101ページで、目指す姿として「生涯学習による魅力あふれるまちづくり」というふうな表現になっていました。これは生涯学習がまちづくりにつながるというような表現になっていたものですから、そこは左109ページのところです。修正後には、生涯学習の目指す姿として、学びの場と教育の創出による生きがいくくりというような表現に変えさせていただきます。

では、次のページに移ります。左110ページ、右102ページのところでございます。修正前の102ページの5-(3)-①の取組3「問題解決型図書館としての資料の充実」というような文言がございましたが、図書館機能につきましては、新たな形が求められているというようなことがお話の中でございましたので、その部分の内容を厚くするために、左の110ページのところで、取組3「市民生活に適切な情報を提供する問題解決型図書館としての資料の充実と、保存資料のデジタル化、サービス提供体制の整備」というような皆さんの意見をもとに文言に修正を加えさせていただ

いたところでございます。

赤い字で書かれたところ、左ページの修正後というところが、皆さんの意見、第1回目の教育総合会議の中で話し合われた内容を、ほぼ全て反映させているところでございますので、皆さんの方で確認をお願いしたいと思います。

事務局の説明は以上でございます。

湊市長

はい、ありがとうございます。この大綱っていうのは、向こう10年をやる中身なので、しっかりと皆さんの意見も反映させて作ってきたいという思いでやっていたところであります。

ただいまの説明が終わりましたが、皆さんから、何かあれば、また感想等々も含めて、ちょっとお話を伺ってまいりたいと思いますが、まずは教育長からお願いします。

秋山教育長

はい、そうすれば私の方から、今回提示させていただいた3つの資料ですけれども、前回いただいたご意見を踏まえながら改変していったものです。その中で1番考えているのは文言というより、文言をより具体的なものにする。読んだ時に、市民の方が自分の中でイメージを持てる、そういうような言葉にしていきたいなっていうのをすごく考えました。で、そういう表現をどうやってこう具体的にしていけばよいのかなっていうのを相談しながら作っていったところあります。

それから個人的には、102ページの秋田県立大との連携の文言があるのですけれども、「市民一人ひとりが学ぶ喜びを感じられる学びの場を提供することにより、創造性あふれるひとづくり、まちづくりにつなげます」というような言葉があります。みんなで学ぶ場を学校教育だけでなく、社会教育でもより活用できればという強い思いがあります。それは公民館活動にもつながっていくというふうに私たちは考えて言葉を作りました。

私自身も、佐藤ひろみ先生、理科の先生なのですが、佐藤ひろみ先生が県立大学を会場に、大学生と一緒に科学の広場というのを開催して、非常に一生懸命頑張ってくださいました。私自身も一緒にやって楽しかったなと思うし、県立大の先生方を訪問してお願いしながら、科学講座とか科学フェスティバルに出させていただくというようなことを広げてきたっていう、そういう思いもあって。そういう地域の中の県立大の皆さんを活用した、また、それを市に広げていくっていうところも、ぜひこの中では大きい柱にしていきたいなというふうに考えて作ったところであります。

以上であります。

湊市長 はい、ありがとうございます。それでは小坂教育長職務代理者  
お願いします。

小坂教育長職務代理者 前回、いろいろ意見を述べさせていただきまして、それを非常に  
取り入れていただいて、しかもわかりやすく、読みやすく、改善し  
ていただけたなと感じております。

特に、ふるさと愛学びの場の創出の1段目の表現は、非常に私も  
何度読んでもちょっと引っかかっていたのですが、「ふるさと愛、  
学びの場の創出をコンセプトに、体験的な学びの場をつくり、ふる  
さと愛と創造性を育む教育を推進します」と、非常にわかりやすく、  
すっきりとした形にまとめていただいて良かったなと感じておりま  
す。

今説明されたところ以外のことにちょっと一言触れてもよろしい  
ですか、資料3の62ページ3行目なのですが、「おもちゃの贈呈  
などで幼児期から木の触れあいを通して」っていうのは、「木との  
触れ合いを通して」ではないのかなど。いろんな表現の仕方があり  
ますので、どちらが皆さんの思いに直接表現できるかあれですが、  
ふっと今見たときにそこに「と」があったほうが私としては理解し  
やすいと思ったのですが、皆さんはいかがでしょう以上です。

湊市長 はい、ありがとうございます。確かに「木との」、この辺はあ  
とで担当に対応させていただきます。小坂さん、よろしいですかね。  
それでは、次に佐藤道昭委員お願いします。

佐藤道昭委員 はい、本当にきれいにまとめていただきまして、ありがとうございます。  
私たちの意見の方も大きく取り入れていただき、そして先  
ほど小坂先生もおっしゃった通り、これから長い先の方針、道しる  
べを見つめられるような文言となっておりまして、大変わかりやす  
く、そして、使いやすいものだと思っております。

実際の取り組み、その具体性におきましては、その都度その都度、  
毎年考えていただきながら、これに即していただければと思ってお  
ります。大変いいと思いますので、これで進めていただければと思  
っております。以上です。

湊市長 はい、ありがとうございます。それでは佐藤美帆委員、お願いします。

佐藤美帆委員 はい、ゆりほんプランの原案から、今の案に変わる段階でかなり  
ブラッシュアップされていて、わかりやすい内容になっているとい

うのは、皆さんと一緒に考えです。誰もがわかるものでないと、みんなが一丸となって取り組めませんので、やはり優しい言葉で受け入れやすくというのが、こういったプランでは最優先されることなのではないかなと思っております。

小坂先生も、ちょっとこの中にはないこととということでおっしゃっていたので、私も一つよろしいでしょうか。私も資料3のスポーツに関することなのですが、この中には、スポ少とかクラブチームとか、そういったことには触れられている部分はないんですけども、やはり学校のクラスで何事もないことがないというように、集団になれば何かしらあるわけですね。楽しい嬉しい以外のこともある。その中で夢を語ることも大事なのですが、現実問題、こう受け止めてほしい思いとか、トラブルの相談先とか、そういったものがあの現状明確でないという問題があると私は感じています。

生涯教育、大事です。でも、将来、じゃあスポーツをやっているという気持ちになるためには、小さい頃からのスポーツへの親しみというのはとても大切なのではないかなと思うので、どうかスポーツを続けていく、心を育てられるような環境づくり、窓口づくりというのを進めていただければと思っております。私からは以上です。

湊市長

ありがとうございました。

まったくそうですね。まあ文言というか、思いもそういった感じですね。わかりました。

それでは次、嵯峨委員お願いします。

嵯峨委員

はい、修正後、非常に見やすくなっていて、他の委員の方々と同様の意見です。

成果指標の現状値と目標値が示されたことで、明確な目標っていうのがまた見える化できたのかなと思います。例えば104ページの子どもたちの地域への意識っていうのは非常に高いですね、現状値も。これをさらに高めていく、もしくは維持するという目標っていうのも明確になってよかったなと思います。

はい、以上です。

湊市長

はい、大変ありがとうございました。私が言うのもなんですが、皆さんの意見を、事務方もかなり文言を考えながら入れたのかなと思います。概ね皆様方からこの方向でいいのではないかなというふうに感じたところでありました。大変ありがとうございました。

総合計画の教育、人づくり政策という中でですね、先ほどもお話ありましたが、「ふるさと愛に満ち、創造性あるひとづくり」って

いうのを基本に据えるということで考えさせていただいておりますし、大変大事な視点だろうなというふうに思っております。

またよく常々言いますが、やっぱり英語とITではないですが、そういったところ、少し特色のある子どもたち、特色っていうのでしょうかね、ここはしっかり力を伸ばしていこうというあたりについても少し文言を入れさせていただいたところでもあります。由利本荘市であります、特色としては県立大もあるわけでありますし、そうした方々の関わりなんていうのも少し反映させていただいておりますし、私は「希望あふれるやさしい由利本荘市」を目指すということもあってですね、希望もしっかり持てる、そしてやっぱり優しいというところも非常に大事なかなと思っていまして。そういう意味で、先ほどちょっとお話しいただきましたけども、少し優しいような、中身も優しい表現っていうのでしょうか、盛り込ませていただいたということで。概ねその方向でということでありましたが、改めて何かありますでしょうか。

佐藤道昭さん、お願いします。

佐藤道昭委員

あの教育委員会に関わる方ではとってもいいと思うのですが、先ほどの数字の件です。数字が本当に微妙に上がっていて、これは、パーセンテージの問題ですから、上がってもいいと思うのですが、例えば64ページのスポーツ関係の方、その先の子ども子育ての方ですね、107ページとかですね。この辺ほとんど数字が変わってないのですよね。これは人口減少を加味した上で変わらないように、むしろこれは増えて、パーセンテージでは増えているのだったことは、私たちは説明されていてわかるんですが、一般市民が見たときに、変わってないんじゃないか、向上意識がないんじゃないかという、そういうふうに取りられがちではないかと思しますので、この担当でまた話し合いがあると思います。そちらの方にも諮っていただいて、例えば下の部分に人口減少を加味した上でどのくらいのっていう補足をつけておいた方が見る方としても安心、見られる方としても安心じゃないかと思うものですから、先ほど同様に、この場で意見言えるものじゃありませんので、そちらの方にぜひ持って行って検討いただければと思っていますので、よろしく願いいたしたいと思います。

湊市長

はい。貴重な意見ありがとうございました。担当に繋いで、そういう方向で少しですね。はい。

他に何かあれですか皆さんからもしあれば伺います。特によろしいですかね。そうすれば、教育長何かありますか。

秋山教育長

ただいまの委員の皆様からのご意見とか、やっぱり多様な視点、多面的な視点のご意見で、本当に大きいなというふうに思いました。私たちが作って行って、やっぱり市民目線の言葉がないと、そこに寄り添うようなものってなかなかならないなって非常に今回は思ったところでありまして。あとはそれをどう実行に移すかで、また、実行に移す時にも、やはり市民の皆様の協力をいただかないと一緒にやっていけないので、行政だけでなく一緒にやる形を作るための1つのツールとして、このものが大きく役立てばいいなというふうに思っています。本当にいろんなご意見ありがとうございました。以上であります。

湊市長

はい、ありがとうございました。いろいろとご意見を出していただきまして、本当にありがとうございました。何点か、今、少し検討もということで、検討加えさせていただきますが、概ね最終案ということで進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げる次第であります。

それではですね、次、3番の意見交換に入らせていただきたいと思っております。この意見交換は、まず話題提供ということで、「これからの学校と家庭や地域との関わり」ということで、教育長から少し話をしていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いします。

秋山教育長

それでは、私の方からお話をさせていただきたいなというふうに思います。

スライド35枚程度で少し時間かかるかもしれませんが、よろしく願いいたします。ここに鳥海山の写真載せているんですけども、これは矢島小中高の手前のところから撮った写真です。11月12日に撮影したのですけれども前日はもうアラレ混じりくらいだったので、この日は晴れたので、いいなって写真を撮りました。今回の資料というのは、先日、市内小中学校長とPTA会長さんにお話したものを集約しながら改変して、若干整理したものをお話させていただきます。

この総合教育会議において、由利本荘市のこれからの教育とか、地域の未来を考える材料にしたいなと思っての作成ですので、よろしく願いいたします。それではまずは由利本荘市の今後の学校のありようについて考えてみたいなというふうに思います。

由利本荘市が誕生した平成17年は小学校21校、中学校11校合わせて32校でした。それが現在では小学校13校、中学校10校になっています。令和8年4月には本荘東小が開校して、小学校が2校減ることになります。これからの学校のあり方を考えるということで、まずは学級編成の基準を確認させてください。国の基準

に対して、県は独自予算で35人学級を進めています。このところ小学校35人、中学校40人になっていますよね。これは、国だと小学校1年生の時は35人ですけども、40人なのですよ、本来は。ここを県は独自に35人で進めていっています。

それが一点と、複式学級は秋田県独自のものはないので、国の基準なのですけれども、16人、1年生を含む場合は、8人なのですけれども、隣の学級と合わせて隣接する学年と合わせた時に16人を切るような形であれば、複式学級になるって、こういう基準があります。そう見ていった時に、小学校は17を切れればそうなるのですけれども、そう見ていった時に、それを確認していただきたいのですけれども、新山これ全部新になりますけれども、鶴舞とか本荘東になった時の、例えば令和13年の時は、ここはもう70人切ります。1年・2年を切ります。そうすると、1学年3学級で持って行ったものが2学級ぐらいに減っていきます。他のところは、すべてこの画面上の学校は1学級になります。

次が、この色のついているところはええと複式になっていく状況です。例えば大内では令和12年から始まりますし、東由利ではもう令和10年から始まります鳥海小学校でも10年から複式が入る形になっていきます。ここで見た時に東由利はもう5年後くらいですか、全ての学年が複式になっていくっていう、そういうことです。この状況っていうのは、やっぱり大きいものだなというふうに思います。

学校規模が小さくなっていった時に、これは地域のいろんな人というよりは、保護者がどのように考えるかっていうので、二つ挙げておきました。

一つは、地域での人のつながりを大切にしたい。友達が少ない環境でも、この場所で子供を育てたいなっていうふうに思っている親。

それと多くの子供、友達と関わらせたいので子供の多い地域に転居したいって、こういう二つの見方が大きく分けてあります。じゃあ自分の生き方と親としての思い、だってそこにいる親はそこに住もうと思ってそこにいるのですから、その自分の思いと、子供として、子供の親としての思いに対して、どういうふうに考えていくかっていうのは、これは非常に大きくなっていうふうに思います。今まで持っていた土地や地域、それから生き方に対する大きな価値観の変化が今生まれています。それは、例えばちょっと前まで、私もそうなのですが、跡取りが土地や建物を優先的に引き継いで、家を守ってきました。今はいくらかの土地を持っているだけで、家族の命とか生活をなかなか守るのが厳しい状況にあります。今この地域に住んでいる理由って何なのかって言った時に、そこが大きなものでは非常になくなって、それこそいろんなことを考えて、自分で決心しないとできないなっていうのが今の現実ではないのかなと思います。自己実現の多様な場を確保するというのは、農業をやっていけば暮らせるとか、何々のものを作ってれば暮らせるっていう

時代が非常に厳しくなっていることと、自営業が非常に少なくなっているという現状があるので、その中での自分の生き方っていうのは、やっぱり若い人たちは考えていかなければいけません。自分の職業や居場所を考え、住居もそれこそ便利なところに変更していっているのは現実にあります。

私は鳥海に行った時に、保護者の方が、子どもが高校生になる時には、子どもが本荘の学校行くから私も別居するっていう、それが当たり前のようにはありました。そういうような状況の中で、その土地の暮らして、そこに住むことをどう描いていくのかというのは、やっぱり難しいなというふうに思っています。本荘地域以外のどこの学校でも。1学年1クラスが9年間続くって、それは先ほどの表にもありました。本荘以外の地区では1クラスがずっと続きます。人間関係が、保育園時代から幼児の時からずっと続くという、そういう現実があります。私は出羽中と大内中が統合になってからの大内中に行ったのですが、片道スクールバスで48分。私は不登校の子の家庭訪問に行くのに40分、35分、40分かかりました。顔を見て帰ってくるだけで2コマが潰れるぐらい。そういうような状況でありました。そういう中でどんなことが考えられるかなって、でも克服できるっていうこともあるよねっていうので、1つは他校との交流で、オンラインでの学習交流については検討していかなければいけないなと思ってます。来年度から東由利と鳥海の可能性の高いところについては、少し練習もしても良いのじゃないかなっていうふうに考えています。ネット上で複式になる代わりに、なんていうか学担が2人いるような感じで持っていけないかなというふうに考えています。

それから、2番目の小中での教職員の乗り入れの必然性は、特に中学校になれば明確なのですけれども、教科担任が今でも単学級なので、数学であれば数学を3学年教えます。それでも10時間行かないので、2つの学校を持つような、そういうものが普通に出てくる。特に実技教科はもう必須になってくると思います。

それから、部活スポ少の連携については、この後にもう少し話します。学習用に1人1台のタブレットが整備されて、これの活用というのは進んでいますが、これで何が起こっているかっていうのが、1つは個別に最適化された学習機会がなされていった時に、一人ひとりの学習意欲とか学びの目的意識が子どもによって大きく違いますよね。それが大きく幅広くなっているっていう、そういう現状があります。その意欲が、学びの意欲っていうか、そういうものが子どもの学習の力にもものすごく左右されるようになってきているのが明確になってきています。この言葉は、勉強のあり方もそうなんですけれども、分かるように教えてくれる先生って前はいい先生だなんていうふうに言われていましたが、今はやる気を引き出す、学ぶ意欲を引き出す先生をいかにこう作っていくかっていうのがやっぱり大きいかなと思います。だとしたら、これは先生以外でもできる。

いろいろな多面的な学校での教育の応援をしてくれたり、フォローしてくれたり、そういう人たちってというのは、学校の先生以外にも多様な人が関わっていく学校になっていくのだろうなというふうに思います。未来をつくる教育と子育てを考えたときに、家庭ってというのがやっぱり社会の基本だと考えて、その学級や学校ってというのはその原型となるものだなってというふうなもので、学級の中で、さっき美帆委員からもありましたけども、人間環境をどう作っていくかっていうのは、すごく大きいところかなと思います。今後の学校のあり方の検討って、その共有がやっぱりこういう会の中で必要だってというふうに思います。

これからの教育を考えたときに、私はここに4つ並べました。

家庭教育、幼児教育、それから学校教育で、義務教育の変革、それから社会教育、生涯教育、それからスポ少部活、これは分かりやすいっていうか、直近の課題として4つ挙げたのですけれども。

まず1つは家庭教育、幼児教育と学校教育の連携ということで、幼児教育から義務教育で今一生懸命、教育委員会でもやっている、県・国全体でもやっているのが接続です。昔は中1ギャップって言って、小学校から中学校に上げる時に非常にみんな難儀してってというのがあったのですけども、今は小学校1年生に入った段階でもうギャップが起こっていて、そこをどうするかっていうので、架け橋プログラムっていうのが進んでいます。集団生活をする上での基礎となる習慣をどのように保育園、幼稚園時代から調整しながら、でも、小1でも座ってこれをやりなさいじゃない学びにどうしていくかというのが今の課題になっています。

それからもう1つは、子育てをする保護者に対してどういうふうには味方になる、それこそ寄り添う、そばにいて相談を受けられる体制づくりというのが、今の課題ではないかなというふうに思っています。幼児教育と義務教育のつなぎとしての架け橋プログラムっていうのは今進んでいて、カリキュラムも作って行って、幼児教育との接続をしているのですけれども、その中で一つは、小学校区でどういうふうにするかっていう、子供の良さとかを課題について、こう協議して共有していくっていうところ。それから狙いを揃えて、それから家庭との共同をやって、カリキュラム作成に関して、最終的には、これは小学校区の園と小学校が協議して、共通理解のもとにこう実践しながら変えていくベースになるものを作っていくっていうふうにして、協議をしています。

次に、義務教育の変革と充実というところでお話をさせていただきます。まず1つ、このことについては、11月13日にあったB&Gの全国教育長会議の中心の話題になっています。これからの教育の方向性として具体をどうするかという講義がありました。特に話題になったのが自分の考えを持つ学びが、日常の学校生活のカリキュラムの中でどう生かされているかが、問われるようになってきている。教えてもらう学びから、自分で進んで、自分で課題を見つけて

学ぶ、そういう学びが大きくなっているっていう話がありました。学習の中に一人ひとりのプレゼンテーションを大きく取り上げて、学びの中心にしている、そういう研究もありました。ただ、プレゼンを作るときも、なぜそれを選んだのか、例えばその地域の良さとかをプレゼンするときにも、今までは紹介で終わっていましたよね。でも、そうじゃなくてなぜそれを選んだのか、あなたはそれをテーマとして選んだ後にあなた自身は何をするのか、ここまで語れるプレゼンにしていくような力を求めていくのは、これからの学びにとっては大きくなるのではないのかなというふうな話がありました。

それから生涯教育、社会教育、生涯教育の充実とみんな教えてつけたのは、私自身もこの分野、非常にあまり得意ではなくて、じゃあ何が違うのだっていうところから入りました。今のAI、非常に優しく教えてくれるので、社会教育は定義といえば、学校の教育課程を除き、要するに義務教育系を除いたところでのものとして、青少年および成人に対して行う組織の教育活動ってありました。生涯学習は個人の主的な学びを基本とし、生涯にわたってあらゆる機会に、あらゆる場所に置いておく、学習全体のことを指します。だから生涯学習がいろんな学びを包含しているっていうふうに考えたときに、そういうふうに捉えたときに、学校教育に限らずに学びというのは、生涯を通して学んでいくっていうのが大きいのではないかなっていうふうに思います。特に若者が参加する学習集団ってのが今できているのか、そこは先ほどの公民館の話でもあったように、非常に弱いところかなっていうふうに思います。ここはもっと研究していかなければいけないのだと。

それから知識とか技能継承の世代継承の検討というので地域産業とか伝統文芸の文化についていかに伝えていくかで、それをより良い自分のやりがいとして作っていくかっていうのも課題だろうと。

それから、学校教育への地域教育のさらなる活用は、要するに地域人材をいかに学校教育の中に取り入れていくかっていうことが大きいのかなと思います。私が最近話をするのは、学校図書館のありようについて考えていて、読書の好きな人とか読み聞かせてやれる人、いろんな人がいますよね。そういう人たちが、例えば図書館を核として地域の教育力を入れていく、そういうようなあり方って、もっと研究するべきだろうなっていうふうに思っています。それによって学ぶということがずっと死ぬまでっていうか、学び続けることの喜びっていうのが、大切になってくるのかなというふうに思います。

最後のところですね。部活動の現状とこれからなのですけれども、令和7年度の部活動の参加者は中学校1159人で、運動部が747人、文化部412人です。表にしたものなのですけれども、各学校にいろんな部活があって、そこに参加者数があるのですけれども、合同チームが黄色の部分なのですけれども、増えてきています。もう広域で1つしかないソフトボールとか、そういう状況になっています。

昔と比べると、本当に危機的状況というか、また別の次元で考えなければいけない状況なのだなというふうに思います。

先ほどは学校部活でしたけれども、プラスの地域の活動、スポーツ活動と文化活動を加えたものです。全生徒数1520人となって、1322人の生徒たちは重複もあるのですが、いろんな活動にうんと取り組んでいるなって。ダンスをやったり、バレーをやったり、ボルダリングをやったりって、そういう子どもたちもたくさんいるのが現実です。それに対して教職員数がどう変わっているかっていうと平成7年から令和7年まで30年の差で、例えば中学校は3分の1の先生が減っています。昔は、部活の先生やってもらうのが当たり前のようなところがあったのですが、今とてもそうではなくて、それから部活をやっていた先生が、例えばあそこの学校に行っても同じ活動というか指導をやってくださいも、もうない状況です。そうなるって小中学校の部活のあり方を考えた時に、ニーズに応じた活動の場っていうのが必要だろうなと。学校が小さくなったからこの種目しかやれないっていうのは、多分今の世の中ではもうないのだろうと思います。それから技術指導のできる人材っていうのは、スポ少は割と専門的にやっていた人が教えてくれている場合が多くて、中学校になったらスポ少の指導と比べてちゃんと教えてくれない、そういう軋轢のようなものがあったりとか、先生たちが異動して指導することも非常に今の現状では難しいものがあります。このスポーツ文化活動を通じて学ばせたいことってなんだろうかって言った時に、いろんな人との関わりとか、そういういろんな意味の価値観があるのですけれども、勝利至上じゃないものもあるし、それから勝たせたいっていう、そういう価値観もあって、そこをどういうふうに共有する、また分けていくっていうのが難しくなっているのが現状です。地域の部活の地域移行への取り組みっていうのは、市教委では令和5年度からコーディネーターを導入して、部活動の指導員を配置して、移行計画を作成して発表しています。令和7年度までのところが具体でも、来年度になれば、年度途中から部活動から地域移行に何点かは進めていくという方向で取り組んでいます。

これからは、いろんな種目団体の協会との連携とか連動がより本格的になってきて、例えば卓球協会の中で指導者を工夫していくというような形をとっていく方向に進めています。あのボートの協会とか、特にそうです。

終わりになりますが、非常にとりよめのない話で申し訳なかったのですが、制度設計をして教育環境を整えるっていうのが教育委員会の仕事だなというふうに考えています。だけれども、家庭とか地域や教職員がみんな未来を共有して、その中でこうしていかなくちゃいけないよねとか、こうしたいよねっていう、そういうものを作り上げていくっていう、手続きっていうか、手順が必要だなというふうに思います。人材の流出が激しくなる以前は、まちづく

りは人づくりからと言われていました。けれども、今も大きく見れば、未来社会を作っていくのは、やっぱり人づくりではないのかなというふうに思っています。

これからの教育を考えたときに、例えば市長もよくお話していますが、例えばAI、それからデジタル系のものとの関わりとか活用をどういうふうにするのか。それから勉強するっていう意味が前はある意味、職に就く手段として捉えられていたけれども、そうでない価値観っていうのはやっぱり大きく出てきているので、そこのあたり辺をどう考えるのか。それから今のコミュニティスクールという組織をいかに活用していくのか。今回のいろんな対応に、熊対策についてもそうなのですけども、どうしていくのかっていうのと、地区にいる多くの若者とか、そういう人たちの人材を生かしながら、子どもたちにとっても、それから地域の皆さんにとっても、いい教育の場を作り上げるっていうのには、やはり私たちはいろんな意味で知恵を出していかなければいけないのかなっていうふうに思います。

最後のところは、これは11月4日、スーパームーンの前日だったのです。新山小に安全指導で行かなければいけなかった時に、ナイスアリーナで撮った西の海に進む月が非常に綺麗だなあっていうふうに思いました。子どもたちの健康とか安全、そして豊かな成長、未来を願って、やっぱり私たちは働いていきたいし、いろんな意見を交わしていければなと思っています。

私からは以上です。

湊市長

はい、ただいま教育長から重いというか、大きいという課題をここにボーンと投げられたというような、そんなような印象もありますが、大きくですね、最初は学校の子供たちの人数というか、間もなく複式がどんどん始まっていくっていうような人数の関係の話と、もう一つは、未来をつくる教育と子育てっていうことで。

先ほどの数値的な部分がハードだとすると、後半はどちらかというとソフト的なイメージの感じの話でしたが、大変あの重いですね。課題を今投げられたという感じではありますが。まず今、教育長からいろいろとお話を伺いまして、これについてですね、皆さんから少しお話を伺っていければなというふうに思います。

まずは小坂教育長職務代理者からお話を少し伺いたいと思います。お願いします。

小坂教育長職務代理者

そうですね。何から話をしたらいいのでしょうかね。まず1つ目は複式学級が見えているのですけれども、やっぱり先ほど市長様がお話ししたように、優しい市ということで、行政の方からすぐに統合という答えを出すのではなく、やっぱり保護者が自然に自分たち

で選んで、こう変わっていくような、頭ではわかっているけれども、受け入れられない心があると思うのですね。統合しなければいけないって言うことは、この数字を見れば、もう見えていてわかっているのだけれども、どうしてもそれを受け入れられない、ここで生きてきたっていう気持ちがあると思うので、やっぱりそれをこう受け入れるには時間がかかるのではないかなと思いました。子どもたちのためにとっても、親が自分の心の中の問題として理解していくために必要な時間を待ってあげることが必要ではないかと思いました。その学校が、例えば鳥海小中学校です。あの素晴らしい建物が空きっぱなしになっていくのは、とてももったいないことだと思うのですが、教室を空けておかないで、例えばダム建設の資料館とか、それから鳥海はマタギの里であったのですね、百宅が。そのマタギの人はまだ生きているとは思いますが。最後のマタギの人が保護者だったのですけれども、そういう貴重なものとか、あるいはダム建設、またぎ、そして今まい一れでやっているいろいろなものを、大人が作るのではなくて、鳥海小学校、中学校の子供たちが自分たちで作るミュージアムのような、そういう資料館のようなものを作って、教室を空けておかないで、自分たちの地域を知るということを形として。空き教室にしておかないで、そこを空きっぱなしの昔の資料館ではなくて、自分たちが学びの場として使えるような、そんな場になればいいかなと思いました。東由利の方は偉人が3人いらっしゃいますので、その3人の偉人のことを学んで、その3人の偉人の資料館として活用していくのもいいのではないかなと思いました。今、支所のところにピアノは置かれていますけれども、学校においてもいいのかな、なんて思ったりして。でも地域の方、皆さんが使うとすれば、支所の方がいいのかな。子どもたちがもっと自分たちの地域のことを掘り下げて、そしてこれからの自分の未来を考える。そういう場として、空き教室にしておかないで、ミュージアムを子どもたちの力で作ったらいいのではないかな、などということを考えました。そして、その学びの中で、やっぱり自分たちはもっとたくさんの人の中で学びたいって言うことで、統合の方に変わっていくのではないかなということ。ただ、行政の方でこう決めたからすぐ統合だというのは、とても受け入れられないのではないかなというふうに感じました。

それから架け橋プログラムのことですが、これ30年以上前にも生活科を入れた時に、この架け橋プログラムということで、本当は小学校と保育園をこうつなぐということで、37年前ですね。37年前に生活科が生まれた時に結構検討されたのですが、保育園の教育の中に少しの間身を置かせていただいた時に、保育園の子どもたちの発達段階は、自己中心的な発達段階なのです。友達の人のことを考えるよりも、まず自分の気持ちを満足させたいという、そういう発達段階。それをするためには手段を選ばないという。すごく残酷なところもあって、小学校の1年生の子どもたちの担任をしたと

きに、保育園の恨みと言って取っ組み合いの喧嘩をしていたことを理解できなかったんですが、それが保育園にちょっとの間、お手伝いに行ったときに、その姿を見て、これが保育園の恨みなんだなって実感で感じたんですが、その発達段階の中で、自己中心的な発達段階の中で、そこに道徳とか正義とか、そういうのをいかにこう培っていかって言うところが、架け橋のところ大きくつながってくるのではないかなというふうに、特に正しいことをするという気持ちが自己中心的ですから、正しいことをするよりも、自分がどうしたいかが大事な、そういう発達段階なので、そこあたりをどのように育てていくかというのは、非常に大事なことになってくるのではないかなと感じました。なんかとりとめないお話で以上です。

湊市長

はい、ありがとうございました。まずは皆さんから少し話を聞いて、最後またこうやっていきたいと思しますので、次は、佐藤道昭さんお願いします。

佐藤道昭委員

まず学校の環境適正化というのは、これから目について大きな問題になってくると思うのです。話を聞くと、複式でも複式がいいという人もいるし、やっぱり人数が足りないから合併だろうなという人もいますよ。それは親の考えそれぞれ違いますから。この二極化があると思いますし、中にはやはり先ほど言われました通り、子どものために自分も本荘の街の方で仕事をしているからということで、結局大きい街に移って、それで子どもたちも大きい学校に移すという、そういう家も中にはあるようでございます。それを考えた時には、やはり何よりもまず地域の人達の考えをまず第一に早めに伺ってみるというのが第一だと思います。複式もいいと思います、私は。ですから、各地域に1校ずつ残すというのは複式になってもいいことだと思いますし、それが地域の人達のためになるのであれば、それを優先すべきだとは思っているのですが、その複式さえもかなわなくなる時代がいずれやってくるのではないかというのが、この人数の変化を見ていくと、鳥海・東由利あたりはそれこそ1学年、下手すると1人2人という、そういう時代が来てもおかしくなくなっていると思います。そういう時に、やはり複式も無理だとすれば、合併しかないという点はそこまで考えなきゃならない。もうこれから10年後にはそうなる可能性がありますので、今からその準備を進めなければならないと思っています。その辺はやはり地域住民の方々とコミュニケーションを取りながら考えていきたいと思っておりますし、本当は街中、本荘の近辺はあまり考えなくてもいいと思うのです。いずれ来るかもしれないけども、でも、まずは先に昔の郡部があった方から優先的に調査を進め、そして話し合いを進めていく必要が今あると思っています。これは部

活にも通用することなのです。共通することなのですが、部活に関しても、すでに例えば野球とかバスケット、サッカー、子供たちで本当にやりたい子供たちって部活じゃないのですよね。クラブチームに行っているのですよ。これが多分これからもどんどん増えてくるんじゃないか。そうすると各部活自体がたとえ野球が好きな子がいる学校でもそっちに入らずにクラブチームに行くので部活ができないという。ならば、むしろそれをまとめていう言い方は悪いですけども、やはり合同チームとして、地域移行のそういう部活をいよいよ進めていかなければ、子どもたちのやりたいものをまずさせるっていうのは1つだと思うのですよ。ここの学校にはこれしかないからじゃないのですよ。そういう子どもたちに向けた部活の考えも本格的に始めなければならぬと思いますし、また面白いのは、ダンス部ってどこの学校にもないのですが、ダンスをしている子どもたち、結構増えているのですよね。それも含めた地域移行っていうのはとってもいいことだと思いますので、ぜひ進めていきたいと思っております。とにかくすべてのものに予算から何から絡んでいきますし、その整備に大変労力必要だと思いますが、そこを考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

湊市長

はい、ありがとうございました。それでは佐藤美帆委員、お願いします。

佐藤美帆委員

私の子育ての考えとしては、やはりゆったりしたところで、地域の人たちもみんな顔見知りの中で、その中でこうスポーツをしたりとか、友達と広いところで遊んで育ててほしいなっていう気持ちがあったからというのもありそれで、由利本荘市に子育てのために定住したという強い思いがありました。

私の肌感覚では、むしろこう地域に学校を残したいと思っているのは、私たち保護者世代ではなくて、もっと上の世代のような気がするのですよね。保護者というよりも、もっと上の世代の地域の方々に、その思いというのもすごく素晴らしいもので、私たち世代には理解できるのですけれども、理解はできるけれども、やはり自分の子供はもっと便利で、人数がいる中で育てたいと思っている。そうすると、統合にもものすごく反対するような方々は、特殊な方を除いてはそんなにいらっしやらないのではないかなというふうに考察しております。でもこれは私個人の意見ですので、実際アンケートを取ったら猛反対とかっていう方もいらっしやるかもしれませんが、わかりませんが、以上です。

湊市長

ありがとうございました。それでは嵯峨委員、お願いします。

嵯峨委員

はい。教育長のお話を伺って思ったこととしては、学校教育を受ける子どもたちと社会勉強していく子どもたちと。おそらくお勉強ですね。学力をつけるためには、これだけいろんなツールが増えていくと、どこに行ってもお勉強はできるようになるのじゃないかと思うのですね。ただ、社会的に共生できる力とか、そういう意味では、義務教育ってこれからも大切になってくると思うので、まあその場所としてやはり学校は必要そうだなと。あの高校で言うと、N高が今すごい。生徒数を全国でも増やしていて、実在する高校の場所としては数カ所で、全国でネットで勉強していくと。ただ、あれもやっぱりこうなんて言うのですかね。こう社会教育ができていくかどうか。年に何回か会って、直接会ったり、バーチャルで会ったりとかする交流を持っているみたいですけども、それを小中学生にはちょっと求められないと思うので、やっぱり先生方に学ぶことって、これからも大切になってくる中で、例えば看護学校も全国的に今サテライト化で分校ですよ。本校と分校という考えが、やはり中間に来るのかなと。分校で複式学級があったりしながらもね、本校との交流をどのぐらいの頻度かわからないですけども持つことで、その周辺の地域で普段過ごしている子どもたち、仲間が少なくても、由利本荘市全体で見るとたくさん仲間がいて。分校本校だから、部活から派生するようなスポ少も一緒にチームでできたりとか、そこで仲いいからまた交流する時も、抵抗なく集団生活できるのかなというようにことですね。スポ少に関して由利本荘市のチームみたいなことに今後なっていくのだろうと思うのですよね。僕の友達でダンススクールをしている、講師をしている友達がいるのですが、カダーレダンスフェスティバルが秋田県で一番大きな大会で由利本荘市内のダンススタジオの子たちには秋田市でも勝てないんだよねって言っていました。なので、そういった特色もあったりだとか。今まで学校で全部やってくれていたお勉強、社会教育、部活をちょっとずつ切り離したり融合させたりしていかなくちゃいけないのだからって言うのを今日の秋山先生のお話を伺って感じました。

湊市長

はい、ありがとうございました。本当、なかなか重いですね。少し私からも、皆さんの話をまあ聞いていて、先ほどの、学校も例えば資料館だとか、鳥海の子供たちは番楽がすごいですからね。そういった継承だとか、架け橋プログラムの関係、あとは複式について言うと、やっぱりなかなか難しいって言うか、どうなのでしょうね。皆さんの意見、大体こう集約すると、やっぱりまず地域の皆さんだとか、関わっている方々の話を聞くということが大事だろうと。全くその通りだなというふうに思います。実はですね、関係あるか

関係ないかわかりませんが、話をしたことがあったかどうかかわかりませんが、私、毎年ですね、今年の漢字っていうのをやっていますね、ちょうど今、来年の漢字をいろいろ考えているんですが、その前に今年の1月、今年の私の漢字って正解の「解」っていう字なのですね。それなぜかという、まあ今年の1月頃の広報を開いてもらうと私コラムに理由書いているのですが、何でかっていうことですね、実は私、市長になって4年、5年ぐらいの中で答えのすぐ出ることっていうのは、まずほとんど私に上がってきません、決裁とかでも誰が考えてもわかることは。つまり私に来る決裁とか相談はもうギリギリなんですね。例えば多数決では49と51みたいな、正解がないないっていうか、どっちも正解っていうか。だから答えがないことが多いのです。例えば今の複式学級についても多分ですね、正解は多分ないんですね。複式学級でそのまま行くっていうのももちろんありだし、そうそうじゃなくて統合していくんだということも一つの考え方、これありなのですね。だからね、正解がない、正解がないんです。ある意味ね、今年の私の漢字はもうずっと市長になってから本当、その正解のないことばっかしなんです。私のところに上がってくるのはですね、当然といえば当然ですね。この複式学級の環境も全くそうだなっていう気がします。なので、どっちでも本当正解っていうので、皆さんの声をやっぱり聞くということ、これも非常に大事だろうし、今、東由利・鳥海はもう数年後の話になるので、先ほど、道昭さんから、早いうちに、例えば来年度ぐらいにはもう少し話を聞くとかですね、そういった場面をしっかりと作っていかないといけないなっていうのは単に来ているなっていうことがあります。あとは、まだもう何年かあるので、ルールとして決められるかどうかかわからないですが、例えばですよ、例えば全学年が複式になったら統合するだとか。例えばですよ、規則的なものにしちゃうと、誰も悩まずそうなるのですね。そういったことっていうのも1つ、こうなったらこうなるよ、こうだったらこうなるよっていうのを事前にもう決めておいてとかですね。そういうのも1つ決め方としてあるのかなとかですね。まあ、そんなことも少し思ったりしていましたが。非常に悩ましい話だなと思いますが、いずれ何かしらの結論を出さないといけないことでしょうし、多くの人に話を聞くということが大事というような思いもあります。あとは、クラブチームの話だとか、ダンススクール、由利本荘チームっていうのも、多分そういう方向になっていくのだろうなっていう気もしますしね。そんなことありましたけども、私も何か結論の出る話では全くないですけどもですね、私も正解を求めて日々やっているところでありますが、何か教育長、皆さんの話を聞いて何かありますか。

秋山教育長

皆さんの話を聞いて、私がこう思っていたのは、私、よく由利本

荘市の面積って沖縄本島と同じぐらいだって話もします。私は沖縄本島を思い浮かべて、あそこも外に出ていく人はものすごく多いのですよ。けども、沖縄の自分の育った場所は非常にみんな好きです。誇りを持っています。向こうは雪降らないじゃないですか。ここは雪の降る沖縄と同じような別世界だよっていう風な、なんかイメージを持って誇りを持って生きていけたら、また違う前向きないろんな気持ちができるのじゃないのかなって、皆さんのお話を伺いながら思っていました。そこに私たちは住んで今楽しいのだからってなんて言える、そういうものを私たちの中にもいっぱい作ってあげなければというのを思ったところです。話、簡単に言って申し訳ありません。

湊市長

また皆さんの話を聞いて皆さんから何かありますか。  
はい、嵯峨委員。

嵯峨委員

現実的じゃない話してもいいですか。  
いろんな分野でコンパクトシティじゃないですか。本当に解決できるのはおそらくコンパクトシティ化で義務教育は本荘市内で済むと。それを全部ある程度用意して、周辺地区にはいろんな特色を持って、農業でも漁業でもですけど、その大きな由利本荘市を分けて、ここは教育の場所とかやっていくのが、おそらく現実的なんじゃないかなと思ったりはしますけれど。その中で終わった後、中でも外でもいろんな場所に活躍していって来て、最終的に戻って来てくれるのが、ちょっと現実的じゃないですけど、そういう区分けができれば、すごく面白いような気がしますけどね。

湊市長

なるほど。多分あれですね。由利本荘市が今こうじゃなくて、どこか全然違う場所に新由利本荘市みたいなのを、例えば作るとしたら、そういう考え方でバーンといけるのでしょけれどもね、なかなか、やっぱり既存にある環境をそうしていくっていうのは、相当ハードルもね。1つ理想的な要素だから、本当別にね新由利本荘を作るとしたら、メタバースとかで作るとなると、そういう感じになっていくかもわからないですけどもね。  
何か他に皆さん、特になんかあるものですか。フリートークみたいな感じでもいいですけども、はい、教育長。

秋山教育長

いろんな話を聞いて思うのは、私はずっとここにいるのですが、そうでなく、やっぱり外から来た人の意見。美帆さんも小坂先生もそうですよね。外から入って来て感じた、その良さみたいなものと

湊市長

かが、とても大切にできればいいなど。今、若い人たちも結構入ってきている人はいますよね。困難なことだけでなく、そこでの感じる魅力みたいなものをもう1回、私たちが整理して膨らまして売っていく。外に1回出てもいいよってね、けど戻ってくる時に2人で来いとか、そういうような施策みたいな、考え方みたいなのができたらすごくいいのだろうなってお話を伺いながら思い出したところでした。

全くそうですね。また悩ましいのがですね、みんな出たって人、出たってって表現がいいのかちょっとわかりませんが、みんなね、由利本荘市好きなんですよ、子供たち。由利本荘市が嫌いだから出て行ったって言うのであれば、逆にね、打つ手を考えられるんだけど、嫌われないようにするっていうかですね。みんな好きなんですよ、なので、打つ手がまた今度こう微妙になってくるのですね。好きなんですけども、やっぱりいろんなそれぞれ理由があると思います。生活の環境だとか、まあ1回都会に行ってみたいとかですね、なんか自分のやりたい仕事がここにはないとかですね。いずれにせよ、みんなやっぱり好きなので、難しいっていうか、嫌いになれっていう意味じゃないですけどもね。本当話していると若い人たち、子供たち、やっぱり由利本荘市好きですね。皆さんね、中学生でも小学生でも高校生の皆さんでもね、みんなやっぱり好きだって言うのですよね。だから出ていくなっても言われぬしね。そこあたりがね、やっぱりなかなかね、悩ましいというか。ここもやっぱり難しいなあということなんですけどもね。

他に何かありますか、無理して言わなくてもいいのですが。

大変重いテーマを出していただきました。いずれにせよ、現実に来るであろう複式学級の関係については、しっかり教育委員会、また皆さん方のご意見も伺いながら進めていきたいものだなというふうに思っています。市としてもですね、人口減少だとか、そういうことは喫緊の課題というか、最大のテーマ課題としてやっていますし、このゆりほん未来プラン、今回は皆さんには教育の関係のことに中心でまず考えていただいていますけども、全体にわたるプランを、今、作成をしているところであります。そこにもいろいろ文言とかですね、どこにこう向かっていく先をどうするかっていうのはあるのですが、常にあるのはやっぱり人口減少だったり、少子高齢化っていうのが常にありながらやっているというところがあります。いずれにしても、あのガンと人口が増えるとかですね、そんなような状況じゃないです。さっきの数字の話ではないですけども、今と同じ数字を目標に、例えばするだけでもかなりハードル高いっていうことなのですね。同じ数字でもですね、まあ全くそれはもう望めませんが。なので、今よりずっと少ない数字が目標になったりしているところはたくさん出てきていますけども、そういった

ところもしっかりやりながらやっていかないといけないなという思いで今進めておりますので、引き続き、色々と皆さんからご意見いただいたりですね、お力になっていただきたいというふうに思います。

ええ、そうすればですね、大きい3番、意見交換については以上とさせていただきます。それでは4番のその他についてですけども、特に何っていうことはないので、皆さんからその他についてちょっとお話を伺っていきたいと思うんですが、今度は順番逆にして、嵯峨委員さんからお話をお願いします。

嵯峨委員

さっきもちょっと実は話していたんですけど、感染症が大変だなということですね。例年の季節性のインフルエンザにしても、1ヶ月早く大流行した上で、ほぼ全部の学校が学級閉鎖、学年閉鎖、休校に追い込まれたと。おそらくピークは過ぎたと思いますけれども、その感染対策もそうですし、明確な基準、その学級閉鎖ですとか、学年閉鎖ですとか、休校の基準というのを設けて、地域によって。これも母数がNが違いますから、何人休んだら学年閉鎖とか難しいんですけど、パーセンテージで行くにしても、パーセンテージが一緒でも数人しか休んでないところって、Nが大きいといっぱい休まなきゃいけないっていう、ちょっとなかなか基準を設けるのも難しいとは思いますが、やはり少子化だからこそだと思えるんですけども、今後またこういった感染症によってお休みが生じる場合に不公平感がないように、お勉強についてですね、考えていかなきゃいけないんだなと思いました。今回のインフルエンザの流行で。

湊市長

はい、確かにいろいろ学校、学級閉鎖ありますが、対応とか対策っていうのはあれなのでしょう。【市長に個別に説明】はい、わかりました、ありがとうございます。それでは佐藤美帆委員、何かお願いします。

佐藤美帆委員

はい。私は言いたいことは言いたい全部言わせていただいたような気がします。ありがとうございました。

湊市長

ありがとうございます。それでは道昭委員、お願いします。

佐藤道昭委員

これ、先ほど実は教育委員会の方でもちょっと話したのですが、すごくあの市長さんが市の方で即時対応していくっていうのはすご

いいことだなと思ったのが、今回の各総合支所、これを業務縮小と。これも大変素早い対応だなと思ったのですが、今年度学事課ができ、内部で結構構成が変わっているところに、来年またすぐに総合支所の方の変革というか改革があるというのは、毎年の改革で職員さんたちが難儀じゃないかなと思っているのです。結局、職務が変わったり、内容が変わったりもしますしね。それは大変だと思っておりますので、市民にも優しい、でも市の職員にも優しい改革を、もうちょっと緩やかにしてもいいところは多分あると思うのです。例えば、今年学事課にして、様子を見て、それからこうこうとということで、2年後ぐらいにまた改革っていうのはあってもいいと思うのですが、毎年だちょっと疲れるのじゃないかなと思ったところがありますので、どうぞお手柔らかにお願いしたいと思っております。

湊市長

はい、ありがとうございました。

いずれですね。今回、機構改革の中で、特に考え方としては、そういう説明があったかどうかわかりませんが、各支所で重複しているところを少し一元でやるとか、色々と、市民の皆さんには極力とか、ほとんど迷惑かけないような中でやっていこうとということでやっています。いずれこういうのも、まあ機構改革というのは、行財政改革ですね。行政改革、これは色々いろんな場面で進めていかないと、これは皆さんも十分ご理解いただけていることだと思います。ただ、いわゆる激変緩和じゃないですけども、ガッと急に変わるとですね、なかなかまあ、そこもしっかりとあの考えながらやっていかなければという思いではおりますので、大変貴重な意見ありがとうございました。そうすれば小坂職務代理者、お願いしますはい。

小坂教育長職務代理者

ええ、いろいろ意見を述べさせていただいて、ありがとうございました。鳥海の方たちと東由利の方たちはもう何年先っていうのがもう見えてきているので、そうすると移り住むとなった時に、やっぱり住む場所、スクールバスで通うのか、市の中心街に移り住むのかって、こう考えた時に、さっきから話の出ているスモールシティじゃないですけども、移り住んで中心部の方に移り住みたいなって考える保護者も多いのではないかなと考えた時に、市有地などをこうあの住む場所として、あの災害の時にあの住宅を立てて住まわせるように、子どもたちが学校に通う間だけ保護者と一緒に住めるような場所があれば、保護者も思い切ってこちらの学校に行きたいなってすぐに決断ができるのかなと思ったり、やっぱりいろんなしがらみもあるし、経済的なこともあるし、親として非常に苦しい判断をしなければいけないことが、十年以内に押し寄せているのだなあ

ということを実感して。本当にただそこに生まれて育っただけで、何も悪いことはしていないのですから。そういうのが同じ由利本荘市民として、そういう悲しい思いをしないで生きていくことができるような、そんなことができればいいなということを感じながらお話を伺いました。よろしく願いいたします、ありがとうございます。

湊市長

全くその通りですね。まあ、市で住宅を建ててなかなかね、どうなるかわからない。でも本当、衣食住っていうか、特に住むところっていう、やっぱり大変大きなテーマっていうか、大変なことだろうと思いますね。まあ、そういったこともあれだなっていうふうに思っています。大変ありがとうございました。貴重な意見です。

はい、そうすればですね、皆さんから、色々とお話を伺ってまいりました。大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

それではその後も以上ということにさせていただいて、案件については以上ということで、会議の進行を事務局の方に戻したいと思います。よろしく申し上げます。

三浦総務課長

はい、湊市長、議事の進行ありがとうございました。

皆様には長時間にわたり活発な意見交換いただきまして、誠にありがとうございます。それではこれもちまして、令和7年度第2回総合教育会議を終了いたします。皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

【16:50 終了】